

《原著》

腹部大動脈瘤術後24か月以内患者のQOLと症状の評価

土屋 裕美¹⁾, 佐伯 悟三²⁾, 柴山 健三¹⁾

¹⁾ 椋山女学園大学看護学部看護学科, ²⁾ 安城更生病院外科

要 旨

【目的】 腹部大動脈瘤 (AAA) 術後 {人工血管置換術 (Open) 患者群48名とステントグラフト内挿術 (EVAR) 患者群6名} 24か月以内男性患者に症状と健康関連QOL調査を実施し, 一般健康人 (対照群) と比較した。**【方法】** 健康関連QOLは, SF-36を使用して測定し, これらの資料は郵送法で得た。**【結果】** EVAR患者群に比べOpen患者群は, 腰痛, 疲れやすい, 手術後創痛の症状が多かった。QOLはOpen患者群に比べEVAR患者群でSF-36スコアが低い傾向であったが有意差はなかった。**【結論】** 両群は対照群と同程度のQOLまで回復していることが示唆された。

キーワード: 腹部大動脈瘤, 生活の質, 症状, 開腹術, ステントグラフト内挿術